

茨城県境町でアルゼンチン

1. アルゼンチンの日の集い

藤田 悟郎

10月27日（土）茨城県境町立長田小学校の「アルゼンチンの日の集い」が開催され、在日アルゼンチン大使館からアラン・ベロー大使並びにセサル・カンポイ公使が出席されました。

幕末のペリー来航時、同行の亜国海軍武官モンテネグロをもてなした下総関宿藩士野本作次郎の交流に始まり、80年後曾孫どうしの巡り合いを経て、長田村（現境町）と大使館との交流が今日まで続いています。1930年代の在日亜国公使館公使のアルトゥーロ・アルヴァレス・モンテネグロ氏が作次郎の子孫に会いたいと、曾孫の野本作兵衛氏（長田小学校卒業）と会うことができました。



毎年開催の長田小学校児童と大使館の交流は今回も児童たちが趣向を凝らし、大使、公使、橋本正裕境町長、日亜協会寺本安久、藤田悟郎、文野敏博各氏をはじめ多くの来賓、来場者をもてなしました。野本家現当主、勇作氏も楽しまれていました。

会場のみなさんは、神輿を担ぐ子供達の元気な姿やいろいろなパフォーマンスと作品に魅了されました。今年のスローガンは「スマイル・フェスティバル ～長田の笑顔 はんばな いって！！～」でした。



日亜修好120周年にあたり、日本とアルゼンチンとの交流を深めてきた境町と長田小学校に対し、表彰状が授与されました。

（ふじた ごろう：当協会業務執行理事）

2. Casa Montenegro が記念状贈呈される

木村敏夫

11月17日（土）午前、茨城県境町モンテネグロ会館(Casa Montenegro)にて記念状贈呈式が行われました。この記念状はアラン・ペロー在日亜国大使より日亜友好の証としてモンテネグロ会館へ送られました。この会館を敷地内に置き代々維持管理されてきた野本家当主、野本勇作氏が受け取りました。



野本氏(写真左)は贈呈後の挨拶で、幕末ペリー来航時に生まれた二人の交流・友情から始まる日亜親善がここまで続いていることに榮譽を感じる。

1939年モンテネグロ在日亜国公使(当時)の申し出と資金出資により、この会館が長田村(現境町)上小橋(かみこばし)地区の当家の一画に

建設された。地区の青年研修所として、集会所として、会合・食事会・子供の遊び場に大いに活用されていた。ただ時代とともに使用頻度が減り建物の経年劣化も顕著になったのを見た近隣の友人、田中重男氏の資金援助で維持・補修ができた。

今からちょうど2年前にペロー大使がこの会館を初めて見学され、長い歴史と友情に感動されていました。今日はこのような記念状を戴き誠に名誉で、これからも会館の保存に力を尽くしたい。また2020年にはアルゼンチンオリンピックチームに訪れて貰えれば嬉しい。と挨拶されました。



ペロー大使からは、この会館を守って来ていただいた野本氏への大きな感謝と、日亜修好120周年にあたり益々親善を深めていきたい。また2020年オリンピック代表誘致計画を促進する境町に対し感謝と協力の言葉を述べられました。

右からカンポイ公使、橋本町長、野本仁氏(ご長男)、ペロー大使、野本氏、野本弘子氏(仁氏ご婦人)

「下の額の写真はモンテネグロ公使（当時）と野本作兵衛氏」



大使はまた、田中重男氏の献身的な貢献を知り、贈呈式後田中氏に歩みより親しく感謝の言葉を語られるとともに労をねぎらわれていました。

記念状の前で田中氏とペロー大使



橋本正裕境町町長からはモンテネグロ会館の更なる発展のため改装の助成を計画しており、木材を使ったデザインで定評の建築家隈研吾氏とも相談を始め、町だけでなく広くサポートを呼びかけモンテネグロ会館をリノベーションし、益々アルゼンチンとの友好・交流促進を進めていきたい。との心強いご発言がありました。

モンテネグロ会館玄関前にて



上小橋地区の皆さんと（野本邸入り口にて）

3. アルゼンチン派遣児童報告会

同日午後には、境町中央公民館に於いてアルゼンチン派遣児童報告会、その後アルゼンチンタンゴショーが開催されました。

570人収容とのことですが立ち見の観客もでる大盛況です。

まず亜国に派遣された長田小学校を中心とした児童12名によりアルゼンチン訪問(10月14日(日)から22日(火))報告会が行われました。異文化の中で楽しいホームステイ・日亜学院や現地校訪問・茨城県人会の皆さまとの触れ合いなど、かけがいのない学習の場になった、また是非とも再び訪れたいと口々に述べていました。

詳しくは下記URL(6~9)をご参照願います。

<http://nagata-e.sakura.ne.jp/HP/page/10/>



4. アルゼンチンタンゴショー（報告会に引き続き）

＜オープニングセレモニー＞

“みなさんこんにちは” に会場から歓声

亜国との深い関わりを紹介する永井理事長



“さあ、アルゼンチンタンゴショー”



日亜協会が後援するとともに企画・監修も手掛けたアルゼンチンタンゴショーは、当協会理事でアルゼンチンタンゴ・アカデミー会長、飯塚久夫氏(写真左)の名司会で、日ごろ触れることの少ないタンゴを親しみやすく解説しながら、演奏、歌・ダンスを会場に詰めかけた皆さんが堪能されていました。アンコールも出た2時間のタンゴショーでした。

解説と司会の飯塚久夫氏とメンターオ楽団



小島りち子



高志&めぐみ

演奏はオズバルド・プブリエーセのスタイルを継承するメンターオ楽団
歌：小島りち子
ダンス：高志&めぐみ
3組が満員の観客を魅了しました。

タンゴショーの企画・監修は、飯塚氏並びに当協会藤田悟郎業務執行理事、寺本安久常務理事が綿密に準備をし、この日を迎えました。

メンターオの熱演



ピアノ松永裕平 コントラバス大熊慧 バンドネオン池田達則 ヴァイオリン専光秀紀・宮越建政



ベロー大使も思わず “Espectaclar!”





バンドネオンに興味津々



ペロー大使は児童に大人気



出演者と児童たち、ハイポーズ



最後は全員集合

境町としては今回5年ぶり二回目のタンゴイベント開催でしたが、今年の盛況を受け東京オリンピックホストタウン気運醸成もあり今後毎年イベント開催も予定しているとお聞きしています。

(きむら としお：当協会業務執行理事)

写真ご提供：境町役場